

蘭寿おりもと

平成 21年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493800039	事業の開始年月日	平成19年2月1日	
		指定年月日	平成19年2月1日	
法人名	特定非営利活動法人 折本福祉サービス			
事業所名	グループホーム蘭寿おりもと			
所在地	( 224-0043 ) 神奈川県横浜市都筑区折本町1374-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年2月13日	評価結果 市町村受理日	平成22年6月15日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は家族同様のお世話を心がけ、気持ちよく生活して頂けるように努めております。お天気の良い日は、利用者様と職員と一緒に散歩に出掛けたり、季節に応じてお花見、クリスマス会、歌謡ショーなど一年を通じて様々な行事を行い、また、時々利用者様と職員で回転すしなどに外食に行く事もあります。皆さんとても楽しみにして下さっております。なかなか行き届かない所も多々あるかと思いますが、気持ちの悪い、今までで過ごしてこられたありのままの人生を受け入れ、日常生活、ケアのお手伝いが出来ればと思っています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年3月9日	評価機関 評価決定日	平成22年5月10日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れていると思われる点】  
◆理念具現化への統一的対応  
理念「利用者本位」を誰にでもわかる実践基準に直している。①利用者がしてほしいこと、②職員がすべきこと、③職員がしてあげたいことの順に優先順序を設け日常業務の判断基準にしている。職員も「自分がされて嫌なことはしてはいけない」と具体的に理解している。  
◆様々な医療対応  
内科、精神科月2回、皮膚科月1回の定期往診と契約看護師の週1回訪問、年2回の歯科医口腔ケア指導などの定期対応がある。送迎付き歯科医の利用、職員、家族や私費ヘルパーが付添う眼科通院など様々な医療支援をしている。「病院付添いマニユアル」もあり通院情報は連絡ノートで共有している。  
【事業所が工夫している点】  
◆身体拘束ゼロに向けた体制  
独自に身体拘束ゼロに向けた指針冊子を作成し、職員研修を通して職員間の連携を強化し、利用者が病気などのとき以外は玄関も施錠しない管理体制を取っている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

事業所名	グループホーム蘭寿おりもと
ユニット名	いぶき

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
	○	3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
	○	3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

蘭寿おりもと

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方を優先に利用して頂き、ご家族が自由に出入りされ、ご家庭と同じ感覚で過ごされるように努力しています。	・理念に「利用者本位」を掲げ、その実践を①利用者の望むこと、②職員がすべきこと、③職員がしてあげたいことに区分し優先順をつけて、日々の介護現場で理念の具現化に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時の挨拶。または、行事ごとに地域の方々を招待できるように心がけています。	・オーナーが土地の人で、職員の半数以上も地元居住であることから地域との人間関係をはじめ関わりは深い。 ・町内会の盆踊り参加やホームの花火大会へ招待また地域からの見学者受け入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お正月には必ず地域の方々に獅子舞などをお願いし、来訪していただき、利用者様の喜ばれる顔を地域の方にも見ていただいております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行なっている事は知っているが、参加できていない。今後は会議の内容を参考にサービス向上に努めているところです。	・年4回開催し利用者代表・家族、町内会役員、民生委員、区サービス課、葛が谷地域包括支援センターが参加している。小学校との交流等が討議され内容はフロア会議で職員に説明している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所の担当の方に定期的に様子をお知らせしたり、利用者様との面談の場を持っていただき、より良いケアに取り組んでいくように心がけています。	・利用者の入院、受診で都筑区保護課との相談が多く、都筑区サービス課とは運営推進会議での連絡が中心となる。3ヶ月に1回の都筑区グループホーム連絡協議会研修に参加している。	

蘭寿おりもと

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に利用者様の安全を考え、全員の方々が安心して過ごしていけるように努力しています。しかし、病気のため玄関の施錠はやむをえない時があります。	・身体拘束ゼロの指針冊子を作り新任研修と職員研修で方針、該当事例を説明し、夜勤専従者にも個別に説明している。また「拘束のない介護に関する実態調査」を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は身体的なことはもちろん、言葉の暴力も見逃さないように心がけています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様が暮らしていく中で、今までの人生と変わらず過ごしていただけるように、お守りしていかなければならない。その為にももっと勉強が必要と感じています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の事前に十分な説明、質問の時間を取り、話し合っているため、実践できています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは頻繁に面談を行い、来訪時などは必ず、2者または3者でお話している。両方の意見が違う際は、職員も介入し、ご提案させていただく場合もある。	・利用者とは日頃の会話の中で、家族とは来訪時に積極的に面談して意見・要望を聞いている。 ・聴き取った意見・要望は職員が共有し、事業所運営に反映させている。	

蘭寿おりもと

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは個々に面談し、要望を聞き、反映させている。	・職員とはホーム長・主任が年2回個別面接を行い、フロア会議では提案用紙に疑問・質問・提案などを記載して提出すること等により、管理者は職員の意見を聞き、必要事項は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	いかなる時でも気軽に相談が出来、ユニットの問題点を把握し、職員が解決しやすい方向に矢印を出している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修機会を平等に与え、勉強し、ユニットに反映していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム同士での交流を重ね、認知症の取り巻く環境やどうかかわりを持つか互いに勉強し理解し、ユニットに反映している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今まで過ごしてこられた人生を尊び、受け入れ出来るだけ近い生活状態を確保し、安心して過ごしていただけるように心がけている。		

蘭寿おりもと

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学でご家族とお話し、今までの様子などをお聞きし、ホームの「利用者様本位」の考えを説明し、納得いただくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	24時間生活変化シートの活用、1週間後に家族への連絡など初期対応には、特に対応の見極めに努め、生活全般の解決すべき課題を目標事項にし、支援内容を決定している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の人生の大先輩である利用者様に編み物や料理、子育てなど教わったりし、いつも敬う気持ちを忘れないように心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪を共に歓迎し、イベントへの参加を呼びかけている。また毎月の近況報告の送付や有事にはその都度家族と連絡を取るなどより良い関係の向上に努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前に居住されていた方への電話、お手紙など要望されると、職員も関係が途切れぬように協力し、お手伝いできることは、出来るだけ意に沿うようにしている。	・利用者の入所以前の関係の維持継続の為に、馴染みの美容院や菓子店に行ったり、コンサートに出掛けることも支援している。また、家族との墓参にも出掛けている。	

蘭寿おりもと

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員で参加できるようなレクを考えたり、お誕生会、クリスマスなどの飾り付けを気持ちを1つにし、行なえるような取り組みを行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族へ連絡したり、訪問するなど出来る範囲で努めている。		
Ⅲ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様には時折、居室に伺い、希望や困っている事などのお話を聞き、要望に沿うように、実践している。	・利用者の居室で、また入浴介護時などに、ざっくばらんな話の中で、一人ひとりの思いや意見を聞くようにしている。コミュニケーションが取り難い人には、家族からの情報や表情・仕草から汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の1番良い心地よい生活環境作りに努め、より近いものにしていくように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ほとんどの職員は、夜勤まで経験し、その状態を把握しているため、日々の状態変化を見逃さないように心がけている。		

蘭寿おりもと

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の会議はもちろん、ケアカンファ等で職員の意見を出し合い、それを反映した介護計画を作成するように努めています。	・ケアカンファレンスは日勤職員全員参加で実施し、日々の介護記録はもとより、家族から聴取した利用者一人ひとりの習慣や生活歴なども参考にして、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回のフロア会議で利用者様のケアカンファレンスを行い、次回の会議で必ず検証を行い、また見直しに活かしていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	情報を共有する事により変化に対応出来るサービスを皆で実践し、色々な人意見を取り入れ、多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源を把握する様に努め、利用者が安全で豊かな暮らしができる様に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、精神科、皮膚科などの往診があり、普段の健康状態のチェックおよび早期発見、早期治療を心がけている。また、入居前のかかりつけ医にも受診できるように配慮している。	・協力医による定期往診は内科月2回、精神科月2回、皮膚科月1回がある。また送迎付きの歯科受診、週1回契約看護師の訪問、年2回歯科医の口腔指導もある。希望者には入所前からのかかりつけ医の受診も支援している。	



蘭寿おりもと

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週看護師に状況報告を行い、適切な受診や看護を受けられるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医が入院に繋がるような病状の時は適切な病院を紹介していただき、常に病院関係者との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状では終末期を迎えた利用者がいないが、可能性のある利用者家族とは話し合いを行っている。	・「ターミナルケアマニュアル」があり市主催の研修会にも参加しているが、ターミナルケアはまだ実施していない。重度化については、利用契約時に現在の医療対応、施設対応の限界について説明した上で一人ひとりへの対応内容を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の方や往診医療機関などが指導に来られ、勉強会を開き、実践力を身につけるように努力している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回地域の消防署指導の下避難訓練の行い、避難経路や消火器のある場所、使い方など確認している。	・火災時と災害（地震等）時の対応マニュアルがある。年1回消防署指導の避難訓練のほか隣接グループホームの訓練にも職員が参加している。	・災害発生時に地元の協力が得られるように、地域との「災害協力協定」などの締結に向けての検討を期待します。

蘭寿おりもと

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入室する際のノックはもちろん、トイレ誘導の声掛けにも気を配り、相談事などは本人の居室で行うようにしている。また、否定的言葉を使わないようにしている。	・新任研修で傷つけない気配りこそ大切と教え、プライバシー保護を含めフロア会議で職員相互に考える機会を設けている。実施事例としては、トイレ誘導を手の合図で行う工夫も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お誕生会はお本人の好きなメニューを決めていただき、クリスマス会などは、全員の意向でメニュー作成を行い、自己決定できる機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の始まりは掃除からだ が、その時に利用者様が、どうしてもお話を聞いて欲しいとの希望があれば、そちらを優先し、一日の始まりが穏やかに過ごせるように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服のコーディネートはいつでもどんな場合でも提案させていただいている。また、マニキュアも利用者希望により行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に3度自主メニューの作成を行い、利用者様が食べたいもの、季節の物などを取り入れ、作成するようにしている。	・利用者のうち、できる方にはダシの取り方から調理、配膳・下膳までお手伝いをして貰っている。 ・食事をより一層楽しくするため、献立も週3回は利用者の希望を活かしている。	

蘭寿おりもと

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取には特に注意し、お散歩後や入浴後は喉を通りやすいように冷たいものを提供している。1日を通して1500ccを目安にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後のケアはもちろん、外出後の手洗い、うがいも心がけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	車イスの方にもトイレ誘導を心がけ、尿意を持っていただけるように、排泄パターンなどを考慮し、声かけを行なっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車椅子使用の方を含め、排泄チェック表に基づき、さりげなく声掛けをしてトイレに誘導している。</li> <li>・自立支援の結果、オムツからリハビリパンツになった事例も出ている。</li> </ul>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量は勿論、牛乳や食物繊維の豊富なものを食事に取り入れたり、運動、規則正しい生活など、個々に応じた予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴があまり好きでない方には、早い時間からなど、ご本人の希望にあわせ、対応方法もたくさん用意し、対応している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日曜日を除き毎日入浴は可能で、多い人は週4回入浴している。入浴を好まない人には、時間や人を変えて声掛けの工夫をして浴室に誘導している。</li> </ul>	

蘭寿おりもと

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	オムツ対応の方には出来るだけ、苦しくないように、職員同士で対応を検討し、話し合いを重ね、ご本人にとって苦痛にならないように取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用が出た場合直ちに医師に相談し、普段から利用者の様子観察を怠らないようにしている。その他、薬について内服一覧を作成し、内服薬の確認、成分などの把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	みんなで一緒に楽しめるレクなどを考えている。また、外食なども楽しみの一つである。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じてお花見や動物園など、地域の方々と外出をしたりしている。	・天気がよければ毎日すぐ前の川沿いの緑豊かな道を散歩している。車で近くのショッピングモールへ出かけたり、町内会役員提供のバスで動物園へも行って、外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる人にはお金の管理をしてもらっているが、出来ない人に関しては、事務所で預り、必要なときに渡している。		

蘭寿おりもと

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族には職員がダイヤルを回したり、字の書けない方には、代筆をしたりし、協力できるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔であるように心がけ、室温も適温であるようにし、廊下やリビングなどは季節の花や折り紙などで細工し、雰囲気を出すように工夫している。	・共用空間は採光も豊かで明るく、換気・温湿度管理・清掃が行き届き、廊下やリビングには季節の花を活け、居心地よく生活できるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのイスとは別にソファを用意し、思い思いに暮らせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と共に、テレビなど家具の配置を検討したり、入居後も希望に合わせて対応できるように取り組んでいる。	・備付けクローゼット以外にベッド、仏壇・テレビ、自作の絵、写真などを、思い思いに飾り付け、一人ひとりが安心して落ち着いて過ごすことのできる部屋作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には、ネーム板をかけ、表札に見立て、入り口がわかるようにしている。		

事業所名	グループホーム蘭寿おりもと
ユニット名	あけぼの

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらい
	3, 利用者の1/3くらい
	4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3, たまにある
	4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	○ 3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と
	○ 2, 家族の2/3くらいと
	3, 家族の1/3くらいと
	4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	○ 3, たまに
	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	○ 3, あまり増えていない
	4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が
	○ 2, 職員の2/3くらいが
	3, 職員の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3, 利用者の1/3くらいが
	4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3, 家族等の1/3くらいが
	4, ほとんどいない

蘭寿おりもと

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「利用者本位」利用者本位の優先順位を考え、共有し、実践する事に努めているところです。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時に近所の農家の方々と会話したり、地域の盆踊り大会に参加したりしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元神社に初詣に行ったり、町内で行なわれている行事（祭事）に積極的に参加し、地域の人々との交流を図っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行なっている事は知っているが、参加できていない。今後は会議の内容を参考にサービス向上に努めているところです。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区のケースワーカーと連携し、より良い協力関係の向上に努めています。		

蘭寿おりもと

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年1件の離設があり、玄関の施錠はなかなか難しく検討しなければなりません、身体拘束をしないケアの実践は出来ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止はもちろん、間接的な虐待も含めて、防止に努め、実践できている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して学ぶ機会が取れず、活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の事前に十分な説明、質問の時間を取り、話し合っているため、実践できています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やその家族とは普段からコミュニケーションを取り、要望などは出来るだけ取り入れるように努めています。		



蘭寿おりもと

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議はもちろん、普段から職員の意見や提案を聞く場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段の会話からご本人の「どうしたらいいか?」を聞く努力を怠らず、面談なども行なっています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	その人その人に合わせたトレーニング、面談、研修など定期的に行なっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修（交換研修）や見学などで他のグループホームとの交流は行なっています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に十分に説明、質問、理解の場を設け、フェイスシートによる情報収集と入居後の24時間生活変化シートにより、行動パターンや気分を左右する要因の把握をしている		

蘭寿おりもと

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より十分な面談を重ね、より良い関係づくりに努め、利用者及び家族の生活に対する意向を大事にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	24時間生活変化シートの活用、1週間後に家族への連絡など初期対応には、特に対応の見極めに努め、生活全般の解決すべき課題を目標事項にし、支援内容を決定している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で共同生活の場と言う認識を持ち、より良い関係の向上に努める。また、目標とする課題を利用者の立場に立って、共に達成できる様努力する。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪を共に歓迎し、イベントへの参加を呼びかけている。また毎月の近況報告の送付や有事にはその都度家族と連絡を取るなどより良い関係の向上に努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前より参加していた定期演奏会や電話希望の際の迅速な対応などの他に家族への情報提供や面会者との対応に注意している。		

蘭寿おりもと

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昔話や趣味の話など利用者同士が一つの話で盛り上がるような雰囲気作りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族へ連絡したり、訪問するなど出来る範囲で努めている。		
Ⅲ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話からも「どうしてほしいのか」を把握し、「利用者本位」の理念の下、検討、実践に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前はもちろん、入居後も利用者や家族に聞く等、経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや日報、連絡ノートなどからの情報収集、普段のディスカッションの場でも情報共有の場を出来る限り持ち、把握に努めている。		

蘭寿おりもと

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の会議はもちろん、ケアカンファ等で職員の意見を出し合い、それを反映した介護計画を作成するように努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送り、連絡ノートを活用し情報を共有しながら業務を遂行し、色々な情報を元に介護計画の見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	情報を共有する事により変化に対応出来るサービスを皆で実践し、色々な人意見を取り入れ、多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源を把握する様に努め、利用者が安全で豊かな暮らしができる様に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が望む事を大切にし、より良い関係を築き、定期的に適切な医療を受けられるように努めている。		

蘭寿おりもと

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週看護師に状況報告を行い、適切な受診や看護を受けられるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者が出た場合、2週間に1度はお見舞いに行き、病院の人から情報収集を行い、良好な関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状では終末期を迎えた利用者がないが、可能性のある利用者家族とは話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応のチャート表を電話の近くに掲示したり、説明したりして実践力が付く様に努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回地域の消防署指導の下避難訓練の行い、避難経路や消火器のある場所、使い方など確認している。		

蘭寿おりもと

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入室する際のノックはもちろん、トイレ誘導の声掛けにも気を遣い、相談事などは本人の居室で行うようにしている。また、否定的言葉を使わないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間の飲み物の選択や散歩など、基本的に身体に危険がなければ自由にして頂き、自己決定する場を出来るだけ増やすように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位に基き、利用者が望む事よりも利用者の為にやらなければならない事を優先しているが、2番目の優先として実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水やリップ、口紅など用意し、いつでもおしゃれが出来る様に支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いは一人に負担がかからないように当番制にし、それも強要ではなく無理のない範囲で行なうようにしています。		

蘭寿おりもと

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量など業務日誌などに記載し、食事量、水分共に確保できるように、一人ひとりにあった量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している人には声掛け、介助が必要な方には職員と一緒に口腔ケアを行なっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを読み、声掛けして、出来るだけトイレで行なえるように努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量はもちろん、牛乳や食物繊維の豊富なものを食事に取り入れたり、運動、規則正しい生活など個々に応じた予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週1回入浴が出来ない曜日はありますが、それ以外は個人の意見を元、自由にできるように支援しています。		

蘭寿おりもと

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングでは21:00以降は大きな声で話さないことや廊下の電気を常夜灯に切り替えるなどの環境整備や職員が巡回を行い、一人ひとりが気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説などから薬を把握することや薬の変更があった際は、利用者にも薬の説明を行なうなどしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクなどは強要せず、一人ひとりが何をしたいのかを考え、支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩以外でも、お一人で出かけられる人などには、戸外に出れるように支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる人にはお金の管理をしてもらっているが、出来ない人に関しては、事務所で預り、必要なときに渡している。		



蘭寿おりもと

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は使いたい時に使えるようにしてある。手紙についても、必要なものは揃え、出したい時にらせるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔であるように心がけ、室温も適温であるようにし、廊下やリビングなどは季節の花や折り紙などで細工し、雰囲気を出すように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのイスとは別にソファを用意し、思い思いに暮らせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の希望する部屋で、衛生上問題がなければ、自由にして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレマークや入浴中の札、対入り禁止の札など工夫し、極力自分自身で出来る事はして頂き、必要な時に支援している。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 蘭寿 おりもと  
 作成日 平成22年5月10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	利用者本位の徹底	全職員が利用者本位の意識を徹底し、実践していく	定期的な自己評価、面談の実施。会議などでの利用者本位の取り上げ。事例検討の実施。	12 ヶ月
2	13	災害時の地域との協力体制	災害時の地域との協力体制の構築	地域消防団、近隣住民への協力要請	6 ヶ月
3	3	ボランティアの受け入れ	積極的なボランティアの受け入れ	地域社会福祉協議会との協力。近隣小学校などとの連携。	12 ヶ月
4					
5					